

## 【 2020年度 教育連携委員会 事業報告 】

### 教育連携委員会

委員長校 : 兵庫県立大学

副委員長校: 大手前大学、兵庫医療大学

委員校: 芦屋大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、神戸大学、神戸医療福祉大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸芸術工科大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸親和女子大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学  
計22校

### <目的>

県下大学の教育事業についての相互連携や教育資源活用に関する相乗効果を図る。  
教育活動を通じて、多様な学生の交流を促進し、学修動機と学修経験の強化、教育効果の向上を目指す。  
学生が所属大学の垣根を越えた学びに対し、単位認定の道を開くことで、コンソーシアム事業への参画の動機づけや、地域貢献活動の実現も期待する。

### <内容>

#### 1. 単位互換事業

集中講義及び特色のある科目による単位互換制度の実施

#### 2. 多様な学修機会の提供事業

(1) ICTを活用した学修機会の提供に向けた試行実施及び本格実施の検討

(2) 医療・看護系学生向けプログラムの実施

### <期待される効果>

#### 1. 単位互換事業

(1) 多様な学生との交流による教育効果の向上

(2) コンソーシアム事業(国際交流、地域連携、社会連携等)に対する学生への意識づけの促進

#### 2. 多様な学修機会の提供事業

(1) 学修に係る地理的・時間的課題の解消による学生の学びの場の拡大

(2) 異なる分野の医療・看護系学生の交流促進による広い視野を持った人材の育成

実施プログラム名称		予算額
①	単位互換事業	500,000円
②	多様な学修機会の提供事業	100,000円

【2020年度 教育連携委員会 事業報告①】

課題	高等教育機会の偏在への対応		
達成目標	開講科目数：10 講座(2021(平成33)年度)		
課題を解決する取組概要	県内の大学に通う学生に、幅広い科目の履修や学びの機会を提供するため、兵庫県の地域特性や各大学の特徴を活かした授業及び集中講義を中心とした単位互換事業を実施する。		
活動指標	ICTを活用したコンテンツ及び医療・看護系公開講座等の提供		
内容 (結果)	<p>1 2020年度単位互換事業 (1)2020年度単位互換事業 昨年度に引き続き、各大学の特色的な科目や集中講義科目等を開放したが前期は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため募集を中止した。後期は開講可能な科目のみの実施とし、1科目を開講した。が決まっている。(直近3か年の推移は以下のとおり) 2020年度 当初予定：15校、開放科目数41科目 実施結果：1校、開放科目数1科目、履修者 8名(3大学) 2019年度 14校、開放科目数45科目、履修者16名(6大学) 2018年度 11校、開放科目数31科目、履修者13名(4大学) (2)学生の送り出し大学拡大の試行実施(H26年度より実施) 学生の送り出し大学を「単位互換事業に関する協定書」を締結している大学まで拡大する取組を継続した。</p> <p>2 2021年度に向けた取組 (1)単位互換協定書締結大学、科目開放覚書締結大学の拡大 協定・覚書未締結校に対して依頼文書を発出中(11月末×切) ・2020年度 協定書締結大学 :33校(29大学、5短期大学・部) ・2020年度 科目提供覚書締結大学:27校(25大学、3短期大学・部) (2)協定書・覚書の改正 新型コロナウイルス感染症感染防止の一環として、県内の多くの大学で遠隔授業が実施されたことから、遠隔授業を単位互換科目として明確に位置付けするなど、現行協定書及び覚書の見直しを行い、理事会で承認された。 (3)広報ツールの制作 学生への周知拡大を図るため、神戸芸術工科大学の協力のもと、ポスターとチラシを作成した。作成にあたっては、以下の点を改善した。 ・新型コロナウイルス感染症禍での実施となる見込みのため、自ら学ぶ意思を持つ学生へのエールとして『『多様な授業形態で「自ら学び続ける」皆さんを応援!』というフレーズを追加した。 ・非対面形態での開講科目があるため、授業形態欄を追加した。 (4)開放科目の選定 11校(9大学2短期大学)が40科目を提供することとなった。 提供大学は今年度を若干下回るが科目数はほぼ横ばいとなった。 例年と大きく異なるのは、11科目が非対面形式での開講を予定している点であり、包括協定書及び覚書の改定趣旨を反映した形となった。</p>		
新しい試み等 (事業計画に記載)			
事業収支	収入 500,000円	支出 532,980円	収支 -32,980円
			備考

自己評価	【対到達目標】	3	【対継続性】	3
	<p>・前期は、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、緊急事態宣言と兵庫県からの休業要請があり、社会的責任を果たすための判断である募集停止を持って、当初計画が達成できなかったという評価はしないこととする。 ・後期は、感染拡大の見通しが立たない中でも1科目でも開講することができたことから、「当初計画を達成」という評価とする。 ・特に、後期開講科目がオンライン形態であることは、現行の協定書・覚書の改正趣旨に合致した先行的な取組であり、来年度の非対面11科目の開講に繋がった。この流れを定着させることで、今後の学生へ多様な学びの機会の提供に繋げていきたい。</p>			
■自己評価基準 (対到達目標)	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	■自己評価基準 (対継続性)	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき	
理事会からの改善提案 (次年度事業計画に反映)	<p>・新型コロナ影響で、前期は応募中止を余儀なくされたが、後期は初めてリモート形式での単位互換科目を実施予定。 ・来年度以降、リモート形式での単位互換科目数を拡大し、受講者数を増やし活性化を図って頂きたい。</p>			

## 【2020年度 教育連携委員会 事業報告②】

課題	高等教育機会の偏在への対応			
達成目標	開講科目数: 10 講座 (2021(平成33) 年度)			
課題を解決する取組概要	県内の大学に通う学生に、幅広い科目の履修や学びの機会を提供するため、ICTを活用したコンテンツ、及び、医療・看護系学生むけプログラム等、多様な学修機会を提供する			
活動指標	ICTを活用したコンテンツ及び医療・看護系公開講座等の提供			
内容 (結果)	<p>1 ICTを活用したコンテンツの検討 「大学eラーニング協議会共通基盤教育システム」試行運用を教育連携委員会委員校7校を対象に実施している。 また、大学コンソーシアムひょうご神戸全加盟校を対象に同教育システムの閲覧期間を2020年度に設け、2021年度の試行運用を目指す予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、それぞれ1年先延ばしを決定した。</p> <p>2 医療・看護系学生むけプログラム 新型コロナウイルス感染症により各プログラムが中止・延期される中、1プログラムを公開した。</p>			
新しい試み等 (事業計画に記載)	「大学eラーニング協議会共通基盤教育システム」の試行運用を教育連携委員会委員校を対象に実施。			
事業収支	収入	支出	収支	備考
	100,000円	36,630円	63,370円	

自己評価	【対到達目標】	3	【対継続性】	3
	<p>新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、ICTを活用したコンテンツの提供については、計画を1年遅らせることとし、医療・看護系学生向けプログラムについては、感染防止対策を最優先としつつ、可能な範囲での事業実施となったが、委員会としては現状でできる対応を行ったことから、当初計画が達成できなかったという評価はしないこととする。</p>			
■自己評価基準 (対到達目標)	4: 当初計画を上回って達成 3: 当初計画を達成 2: 当初計画をやや下回った 1: 当初計画を下回った	■自己評価基準 (対継続性)	4: 本プログラムは継続すべき 3: 本プログラムは継続しても良い 2: 本プログラムの継続には改善が必要 1: 本プログラムは中止すべき	
理事会からの改善提案 (次年度事業計画に反映)	<p>・E-Learningの試行を実施、今後、新型コロナ影響でリモート授業に呼応した 取り組みとして活用に期待する。 ・医療系・看護系学生向けプログラムは、プログラム数の拡大と共に周知徹底を検討頂きたい。</p>			